

平成 2 5 年度 学校 評価 報告 書

学校名[国立市立国立第一中学校]

教育目標	「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。 1. 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 2. 豊かな創造性を養おう。 3. 思いやる心をもとう。 4. 健康な心身をつくろう。	重点目標	☆☆☆「感動ある学舎の創造」のための指導の重点☆☆☆ 生徒一人一人に、明るく、楽しく、充実した国中生活を送らせる。  1 感動ある学習活動の創造 「楽しい授業」により確かな力、豊かな力を培う 2 感動する心の育成 きれいな環境の中で、「豊かな心」を育む 3 「国中らしい、楽しく生き生きとした活動」の推進
------	--	------	---

目標	基本方針	指導の重点	具体的な方策	評価指標	中間評価	最終評価	分析	改善策	評価委員より
1 楽しい授業（工夫されたある授業）から、確かな力、豊かな力を培う	○授業の量の確保と質の向上  基本的な学習習慣を定着させる。	○教員一人一人が授業力向上に努めると共に、校内体制で、授業力向上への取り組みを行い、互いに切磋琢磨していく。  ○授業規律を守らせる。毎時間ごとに「ねらい」や「流れ」を必ず提示する。全員参加型授業の実践に努める。  ○生徒自身のやる気を喚起し、自己学習力を育成する。学力向上につなげる。	○研究部とタイアップし、授業力向上のためのポイントやヒントを提示してもらい、各教員はそれに基づき自分の授業に工夫や改善を行い、その成果や今後の改善点を報告したり、互いの授業を見合い、率直な意見交換を行い、魅力ある授業を創り上げる力を養う。  ○すべての教科において、授業規律を確立させる。教科や担当によって生徒の態度が変わらないようにする。	○生徒の授業アンケートの「授業の説明がわかりやすい」等の結果を8割にする。またアンケート1回目より2回目の数値の上昇をねらう。  ○「始業・終業のあいさつがしっかりできている」「授業でしっかり聴くことができた」を80%以上にする。	A	A	○生徒の授業アンケートの「授業の説明がわかりやすい」1学年は1ポイントdownで86%、2、3学年は0～6ポイントupで82～93%の達成率である。 ○全学年、全教科を通して他の項目と比較してやや低いと考えられるのは、「工夫があり楽しい」で5科では1年79%、2年72%、3年89%、4科では1年86%、2年83%、3年92%となる。 ○「理解しようとした」全学年0～5ポイントupで93～97%が達成、「あいさつがしっかりできた」全学年で97～98%が達成した。授業規律はしっかり守らせることができたと言える。「流れ・ねらいがはっきりしている」の回答は1年90%、2年89%、3年95%となる。	○1年で前回よりも下回ったとは言え、86%の数値である。8割以上は達成している。全学年、全教科を通して低いと考えられるのは、「工夫があり楽しい」授業である。生徒の興味を引きつけ、かつ学習意欲向上や学力向上につながる授業内容を工夫し展開していくことが求められる。○個々の教員で、年度当初に立てた授業改善プランのふり返りをしている。授業アンケート結果も踏まえ、今後に生かしていく。○教員相互の授業観察や、教科での研究授業等研究部でも引き続き授業力向上に向けての取り組みを行っていく予定である。 ○「始業・終業のあいさつがしっかりできている」97～98%、「授業でしっかり聴くことができた」93～98%と80%の目標を大きく上回った。授業規律を守り、真剣に授業に取り組むことができていた数値である。ただ、教員側はそのように捉えていない部分もある。	・アンケートを取り、集計・分析等しっかりできていますね。授業の内容に関しては、先生自身が楽しいと思う内容を楽しく進めることが大切だと思います。部活や指導、教材研究と多忙とは思いますがしっかりと取り組んで欲しい。
2 ①きれいな環境の中で、「豊かな心」を育て	○「感謝・思いやり」の心を育てる教育活動の充実を図る。	○清掃活動の充実を図る。  ○地域・保護者・生徒と連携しボランティア活動を推進する。	○清掃用具の充実を図り、生徒の清掃に対する意欲を喚起し、年に3回美化DAYを設置する。また、夏季長期休業中にPTAと連携して校内の清掃にあたる。  ○ボランティアの場（一橋大学前バス停留所の花の育成、長期休業中における校内清掃等）による環境の美化をの提供の際に、より多くの生徒にボランティアに対する意識と意欲を喚起させる。	○日々の清掃活動を通して、「校内がきれいになった」割合を80%以上にする。また清掃活動に「取り組めた」割合を80%以上にする。  ○「自分も地域・学校の一員であることを自覚した」「自分もまた地域の方に支えられていることに気づいた」「自分を支えてくれる方々に感謝の気持ちを持つことができた」のどれかができたという生徒の割合を80%以上にする。 ○ボランティア参加率を150%以上にする。	B	B	清掃用具の補充を行い、生徒の清掃に対する意欲を喚起し続けている。10月末に美化週間を設置して、生徒の意識を高め、今後の清掃活動に生かせるようにした。夏季長期休業中にPTA・教職員・生徒有志による西階段付近の清掃を実施した。  国体を迎えるにあたり、夏の暑さで枯れてしまった花の植え替えを、みどり育み委員会（委員長石井様、市役所、花と緑のネットワーク、教職員）、1年生生徒有志で行った。今後、校内外の美化に努め、更に生徒のボランティアに対する意識と意欲を喚起させる。	○美化週間を行い、「校内がきれいになった」割合が80%以上になり、清掃活動に取り組めた生徒の割合も80%となった。  ○12月にみどり育み委員会（委員長石井様、市役所、花と緑のネットワーク、教職員）、1年生生徒有志で花の植え替えを行った。 ○ボランティア参加率は180%以上である。3年生が3学期に地域清掃にあたる。	PTA、地域、学校と協力をして、美化・ボランティア活動に積極的に取り組んでいたと思います。今後も継続してほしい。

る	○「いじめはさせない許さない見逃さない学校」をつくる。	「いじめを許さない学校づくり」に学校全体(教員発信と生徒会等生徒発信、いじめ防止プログラム)で取り組む。	○道徳・学活を活用(学期に1回は全校で統一実施)する。生徒全員が「いじめ撲滅標語」作り、それを元に美術部作成のいじめ防止ポスターを校内に掲示し、いじめ防止を発信する。 ○日頃より教員間の連携をとり、いじめの早期発見につとめる。また、「ふれあい月間(6月・11月・2月)」で「いじめ調査」を年3回実施し、実態を把握、共通認識を解決に取り組む。 ○いじめ防止プログラムの実施	○「仲間がいやがる行動や態度を憤もうという気持ちを持って。」という生徒を90%以上にする。 ○「いじめをはやしたてた。」「いじめを見て見ぬふりをした。」をそれぞれ0%未満にする。	B	B	夏季休業中の宿題として「いじめ撲滅標語」を作成して、廊下に掲示している。今後、各賞を設け表彰する予定である。ふれあい月間の他に「いじめ実態と対応調査」があり、3件のいじめがあったことがわかった。それぞれ指導継続中である。10月末より「いじめプログラム」が開始される。	○「いじめ撲滅標語」は1年生で、各賞を設け表彰した。NHK番組「いじめをノックアウト」の依頼を受け、行動宣言を全校生徒で書き応募した。先日、放送されたエンディングロールで学校名が流された。 ○「いじめプログラム」が終了した。今後スクールバイプログラムを教員と生徒(1年生)で継続していく。 ○「ふれあい月間」についての集計・考察は別紙のとおりである。	様々な工夫をされているので、スクールバイ等を活用して今後も未然防止・早期発見・早期解決に努めてほしい。
推3進する「国中らしい、楽しく生き生きとした活動」を	○心に残る学校行事として一層の充実を図る。	○実行委員など中心となる生徒を軸に、学級・学年・学校全体が心に残る行事にするために自主的な活動をするようにさせる。(体育大会・合唱コンクール等)  ○儀式的行事では、厳粛で清らかな雰囲気の中で、新しい生活の展望への動機づけとする。	○運営委員会が自主的・自立的に活動できるような意図・計画をもった企画案・運営案を提示ことで、生徒や教員など学校全体が充実した活動をできるように図る。  ○厳かな雰囲気の中にも、本校の伝統ある行事を受け継いでいこうとする態度を育む指導や礼法指導等を計画的・意図的に実施していく。	○生徒へのアンケート調査で「クラスや学年で協力し行事を成功させよう」と取り組むことができた」「実行委員の取り組みが行事を成功に導いたと思う。」との回答率を80%以上にする。	A	A	○行事に関し、生徒の実行委員会を立ち上げて取り組んでいる。または取り組んだものは大きく分けて以下の行事である。 ・対面式(4月実施) ・体育大会(5月実施) ・修学旅行(9月実施) ・2年生校外学習(9月実施) ・生徒総会(5月・10月実施) ・合唱コンクール(10月19日実施予定) ・1年生校外学習(10月31日実施予定) 学校の行事は教員側の計画立案を経て、生徒の実行委員会が動き出すが、どの行事もその過程を経て注意深く行われた。生徒実行委員が中心となり、取り組みを進めた。特に学校全体で行われる行事について、滞りなく行事を実施することができた。 現在行われている合唱コンクールの取り組みでは、実行委員だけでなくそれぞれの役割を持つ生徒が中心となり自主的な活動を各クラスで進めている。また合唱曲のパート別の音確認はすべてのクラスで9割方終了している。そのためクラス全体で更に応用的に合唱曲を深めていく時間を多くとることができている。 ○始業式・終業式などは厳かな雰囲気の中行われている。	○行事は、担当者や該当分掌・学年が企画・計画を行い、それが運営委員会・職員会議などで昇任されて、準備される。その流れの中で何度も案の見直しや改善が行われている。2学期までに行われてきた大きな行事については、概ね良好な結果が出た。また生徒の委員会・係活動も充実され、生徒による行事運営も各行事で活躍が見受けられた。 ○例:アンケート調査の生徒の回答。 ・「スローガンを意識して取り組めたか。」 よくできた・できたと回答・・・92% ・「合唱コンクールまでの取り組みについて」 よくできた・できたと回答・・・94% ・「練習で培ってきたものをすべて出してきたか。」 よくできた・できたと回答・・・94%  ○始業式・入学式・終業式は、節度ある態度で式を行うことができた。今後は卒業式に向けての取り組みが全学年で始まる。	行事に関しては、楽しく参加させてもらいました。国中の伝統を継承して、更に発展してもらいたい。合唱コンクールの生徒の合唱レベルが高く感動しました。先生方の指導のたまものだと思えます。
4その他	「健康の保持増進」に努める生徒の育成を図る。	○学校生活において自己の健康保持増進について考えることができるようにする。	○昼休みに校庭で運動をする生徒の割合が増加するよう、各学級にボールを配布し、外で元気よく運動できるようにする。 ○体育大会・合唱コンクールで保護者へ「食育」についてお知らせを行い、栄養のバランス等について考えていただく。 ○スポーツ推進校として1年間、生徒の体力向上を目指す。		B	B	○昼休みには校庭で運動をする生徒の数は多いときで150名を超えている。今後も継続して外で元気よく運動できるようにする。 ○体育大会の開催時に保護者へ「食育」についてお知らせを行い、栄養のバランスについて考えて頂く機会とした。 ○スポーツ推進校として1年間、生徒の体力向上を目指すことを継続中である。	○昼休みに校庭で遊ぶ生徒は最大で180名になった時もあった。冬季は少しずつ減少してきているが、今後も健康の保持増進を呼びかける。 ○合唱コンクールの開催時に保護者へ「食育」についてお知らせを行い、栄養のバランスについて考えて頂く機会とした。 ○スポーツ推進校として1年間、生徒の体力向上を目指すことを継続中である。	健康の保持増進のために様々な活動を行ったので、来年度も継続してほしい。